

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホームハッピー万々

ユニット名 ハッピー万々 I

自己評価実施年月日 平成 19 年 8 月 15 日

記録者氏名 佐藤 美恵

記録年月日 平成 19 年 8 月 20 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	理念を地域に浸透させていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	GHの行事参加、見学の機会を多く取れるようにしたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	スーパーだけでなく、地域の店を使うようにする。 家族にも声をかけて一緒に出かけるようにする。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所の方に参加していただく行事を計画していきたい。カラオケ、バーベキュー等したいと思っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	町内会に参加し、地域の行事に積極的に参加する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の回覧に載せてもらい、情報を出して、見学に来られた時に相談を受けている。	○	いつでも見学に来ていただけるように声かけしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に伝え、日常的に意見交換して、日誌の書き方等に取り組んでいる。	○	日誌の書き方、ケアプラン
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告し、意見をもらっている。 (学校の生徒と交流でできるようにしたらどうかとの意見をもらっている)	○	交流のための動きを検討している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組みができていない	○	質の向上のため、意見をもらうようにする。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は理解し、必要な場合は支援している。	○	成年後見のための手続きを家族からあったとき、支援をしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会で話し合いをしている。 家族への防止にも取り組んでいる。	○	職員に言葉の虐待にならないように職員会等で徹底している。 家族へ防止のため、市へ連絡した。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明し、確認して、納得を図っている。	○	理解と納得を確認し、安心できる説明をしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が職員に対して、不満を言える雰囲気作りをしている。	○	不平不満を個人での対応でなく、職員全体が対応するようにする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月グループホーム便りを発送し、利用者の暮らしぶり、職員の異動も知らせている。その時金銭管理の報告をし、個別に職員から手紙で状況報告をしている。	○	電話でも連絡をしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに来られた時や電話で意見を話せるように声かけしている。 家族会を年2回開き、意見・不満を聞いている。意見箱、苦情アンケートを実施している。	○	GHに来られたとき、家族とゆっくりと話せるじかんを作りたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や普段の会話で意見を聞くように努力している。	○	話しやすい雰囲気作りをしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出時等に職員を多くし、安全のための対応をしている。	○	急な受診等のときの対応を考えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員対応としている。 異動の場合も家族に説明し、新しい職員が入ったときも、コミュニケーションしやすいように配慮している。	○	異動が少ないように配慮していきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立てて、参加の呼びかけをしている。事業所内での勉強会をする。	○	個人の研修参加の内容を報告する。 事業所内の勉強会の実施。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHのスタッフや管理者と交流を持ち、相談もしている。	○	他のGHと連絡をとり合い、意見交換し、質の向上のため研修の機会を持ちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常の会話や表情でストレス等把握するように努めている。	○	愚痴や希望が言えるような声かけをしていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況等把握して、資格取得のため支援し、研修参加への配慮をできるだけしている。	○	職員が向上心を持って働けるように配慮し、呼びかけをしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握し、事業所のことも説明し、ご本人にGHに来所してもらい、職員が本人に受け入れられるように努力している。	○ 事前面談で本人の希望、ご家族の希望を聴く時間をかけていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	聴く努力をしている。	○ 時間をかけて聞くようにしたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことを見極められるように他の のアドバイスを受けている。	○ 必要としている支援を見極めるように情報を得ておきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらい、また自宅へ出向く等の機会を作っているが、すぐに入所の場合があった。	○ ご家族・本人に事業所を見学し、また自宅へ出向く等、職員や他の利用者と馴染めるように家族とも交流していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も一緒に利用者と過ごす時間を多くするように努力しているが、時間は少ない。	○ コミュニケーションの時間を多くとる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にGHに気軽に来てもらって、職員も参加し、コミュニケーションをしている。	○	職員は家族の思いに寄り添いながら、情報の共有に努め、利用者を一緒に支えることが出来るようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	訪問しやすいようにし、日頃の会話の様子も知らせるようにしている。	○	写真等で生活の様子をもっと知らせていきたい。 行事参加の呼びかけをする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の関係が続けられるように、連絡や面会の機会づくりの声かけをしている。	○	友人がGHに入りやすいような声かけをしている。行事にも参加してもらえるようにしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が仲良くできるように一緒に職員も会話に参加している。	○	利用者同士が仲良く話しができるように職員も一緒に過ごす時間を多くする。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院しても利用者を見舞い、様子を聞いている。	○	サービス利用が終了しても様子を聞いていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中から表情等で把握に努めている。会話の中から希望を見つけ出していくようにしている。	○ 言葉だけでなく、態度や表情に気をつけて見ていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴が詳しく分からない利用者があるので、家族・親戚に来所時に教えてもらっている。	○ 生活歴の記入を詳しくしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の状況を職員会や申し送りで把握するよう努めている。	○ できない事よりできる事に注目して、その人全体の把握できるように職員に徹底したい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今までになかった事や気付いた事などがあれば、スタッフに連絡・報告し意見交換している。	○ 担当者会を開催している。 家族からも意見を聞いている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しに加え、入院や体調変化時等に必要に応じて随時見直しをしている。	○ 職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望をより取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に沿っての実践評価（モニタリング）を毎月している。 申し送りノート・健康管理表の確認、ミーティングや担当者会・職員会にて情報共有に努めている。 状態に応じ、水分・食事・排泄チェックをしている。	○	口答にて情報収集している。 今後は担当制のモニタリングにも取り組む予定。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療処置を受けながらの生活の継続の支援、早期退院の支援をしている。	○	医療処置を受けながらその人らしい生活ができるように支援する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防や地域の民生委員、近隣の方と交流し、ボランティアにも来ていただいている。	○	近隣の方ともっと多くの交流ができるように支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他病院からボランティアの美容師を紹介していただき、来てもらっている。	○	地域の他のサービス事業所と話し合いをし、情報を得て、他のサービスを利用するための支援をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域推進会に参加していただき、地域の事業所の行事の情報を得て参加している。	○	ケアマネジメント等の意見を得ていけるようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	情報をできるだけノートに詳しく記入して、ご家族に渡すようにする。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	状態変化の時、その都度相談する。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	訪問看護の職員と常に連携し、相談している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院によるダメージを少なくするために、病院と話す機会を持ち、家族とも連絡し、退院への支援をしている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ご家族の納得がいくように話し合うようにする。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ご本人とご家族が安心して終末期を迎えられるように話し合いを度々していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供している。	○	職間が訪問し、きめ細かい連携をするように心がけたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳と権利を守るため、排泄介助時及び声かけ、日常生活においてもプライバシーの確保を実施している。 記録においてもプライバシーの確保をしている。	○	日常生活においてスタッフ間で利用者についての個人的な事を守っていききたい。介助ににしてもさりげなく行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思い、希望にあわせ、支援させていただいている。	○	入所時納得していただき、入所していただいているが、本人の希望をもっと表せる働きかけをしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活をしていただくため、個別に対応させていただいている。	○	食事においても、時間にとらわれずに食事していただいている。入浴においても希望に沿って支援している。 自室での過ごし方は個々のペースで過ごしているが、共同の客間でも遠慮のない生活となるようにしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所の美容室及びボランティアによる美容等、ご本人の希望に沿うよう支援している。	○	美容室に行かれることもご本人が望まれるよう、支援させていただいている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と相談しながら決め、野菜切りや米とぎ、盛り付け等スタッフと一緒に調理され、食事は同じテーブルでスタッフ全員が同じ物を一緒に食べる	○	その日のメニューは利用者と相談しながら決め、野菜切りや米とぎ、盛り付け等スタッフと一緒に調理され、食事は同じテーブルでスタッフ全員が同じ物を一緒に食べる
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	スタッフは利用視野の嗜好物の把握に努め、おやつのお時間にお出している。 誕生日、祝日にはノンアルコールビールで乾杯している。	○	スタッフは利用視野の嗜好物の把握に努め、おやつのお時間にお出している。 誕生日、祝日にはノンアルコールビールで乾杯している。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間誘導をするも、スタッフは羞恥を感じさせないよう言葉かけに配慮する。 一人一人のサインを把握し、さりげなくトイレ誘導する。	○	拒否がある場合、言葉かけの工夫や、チームプレーで支援する。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフが一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認している。 入浴を拒む人に対しては、言葉かけやチームプレーによって利用者に合わせた入浴支援をしている。	○	羞恥心を感じさせないように配慮する。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、散歩やレク、買い物当に参加され、生活リズムを整え、ハリのある生活をされるよう工夫している。 夕方からは就寝にむけ、ゆったりと過ごされるよう工夫している。	○	夜中寝付けないときには、添い寝したり、温かい飲み物をお出ししている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備では、米とぎ・野菜切り・野菜の皮むき等、食器洗いや洗濯物たたみ等、利用者に役割分担をし、終わると感謝の気持ちを伝える。	○	地区の夏祭りや運動会、JAみかづき祭に参加している。 個人の趣味を取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり管理しているが、外出時や買い物時などスタッフが同行し、自分で払っていただけるようお金を手渡ししている。	○	家族よりお金を預かり管理しているが、外出時や買い物時などスタッフが同行し、自分で払っていただけるようお金を手渡ししている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気やご本人の希望・体調に応じてご近所への散歩をされたり、スーパーへ買い物に行かれる。 ご家族と一緒に外出される。	○	ご近所の美容院へカットやパーマをかけに行かれる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感やいつもと違った雰囲気を味わっていただけるよう毎月計画をたて、バスレクにて外出される。場合によってはご家族の協力を依頼する。	○	季節感やいつもと違った雰囲気を味わっていただけるよう毎月計画をたて、バスレクにて外出される。場合によってはご家族の協力を依頼する。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い・年賀状等、季節のあいさつ状を書いていただく。 家族からの電話でお話ししやすい雰囲気作りや場所の工夫をしている。	○	暑中見舞い・年賀状等、季節のあいさつ状を書いていただく。 家族からの電話でお話ししやすい雰囲気作りや場所の工夫をしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも普段着で気軽に来られるような雰囲気作りを心がけ、スタッフは笑顔で対応している。	○	他の利用者に気兼ねなく過ごしていただけるよう自室にご案内し、居心地のよい空間作りを心がけている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利・擁護や身体拘束に関する研修会に出席し、スタッフ間の共有意識を図っている。	○	サイドレール4本 家族の希望により同意書あり 身体拘束11種類の把握 スタッフ間の認識を徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声かけをしたり、一緒について行くなど、安全面に配慮する。 見守り、声かけ、スタッフ間の連携プレー	○	東門は水路があり、鍵をかけているが、散歩の時や庭にいる時ははずす。 西門は道路に面し、交通量が多い為、PM16:00～AM10:00まで門扉に鍵をかけ、AM10:00には開ける。 声かけ、確認を常にしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は見守り、声かけ、スタッフ間のチームプレーの徹底に努める。夜間帯や自室で過ごされる場合は、所在の確認をし、24時間利用者の安全に配慮する。	○	日中は見守り、声かけ、スタッフ間のチームプレーの徹底に努める。夜間帯や自室で過ごされる場合は、所在の確認をし、24時間利用者の安全に配慮する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、利用者の状況変化によって、注意を促しといく等ケースに応じた対応をしている。	○	利用者の状況に照らしながら、利用者の状況変化によって、注意を促しといく等ケースに応じた対応をしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ間の連携プレー、声かけ、見守りの徹底。 インシデント、アクシデントを記録し、カンファレンス会議し、スタッフの共有意識を図る。	○	誤薬しないようにスタッフ2名にて声かけ確認の徹底と、朝・昼・夕の薬箱にて分別する。 誤嚥しやすい利用者には、きざみ食にしたり、ピューレ食等、工夫している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応についてのマニュアルの整備確認や研修に参加し、スキルアップしている。	○	看護師と連携をとり、24時間いつでも連絡が取れる（携帯電話等で常に連絡が取れる）体制を執っている
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、火災訓練を行っている。地域の方への参加も得られるように声かけしている。	○	消防署の協力を得て、火災訓練を行っている。地域の方への参加も得られるように声かけしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	安全を優先しすぎないように自由な暮らしができる事が行動の障害を少なくしているとの説明をしている。	○	外出の機会を多くしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や表情の変化の発見に努め、職員と共有し、訪問看護に相談する等、必要に応じ医療受診している。	○	体調や表情の変化の発見に努め、職員と共有し、訪問看護に相談する等、必要に応じ医療受診している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会をしている。 職員は処方箋を見て薬の目的、副作用を理解するように指導している。変更の場合申し送りで目的を書いている。	○	処方箋を見て副作用を全員が理解するように徹底する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のために食材に繊維の多いものや乳製品をとるようにしている。 散歩や体操で身体を動かすようにしている。 薬の服用も医師・訪問看護と相談しながら対応している。	○	便秘予防のために食材に繊維の多いものや乳製品をとるようにしている。 散歩や体操で身体を動かすようにしている。 薬の服用も医師・訪問看護と相談しながら対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを個々の状態に応じて対応している。	○	毎食後口腔ケアを個々の状態に応じて対応している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態によって食べる量、水分量を記入して、医師に相談する等支援している。定期的に管理栄養士のアドバイスももらっている。	○	状態によって食べる量、水分量を記入して、医師に相談する等支援している。定期的に管理栄養士のアドバイスももらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルを作成している。インフルエンザは職員共に予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、定期的に消毒をしている。	○	感染症に関するマニュアルを徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんは毎日、まな板は定期的に漂白し、冷蔵庫の掃除に気を付けている。 新鮮で安全な食材を使用するよう気を付けている。	○	ふきん、まな板、食材に気をつけるようにする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気玄関になるように花を植えて、利用者や家族、近隣人等に親しみやすいようにしている。	○	庭のベンチの周りを変えて、近所の方も入ってみたいようにしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜は遅くまで居間を電気をつけないようにする等、不快な音や光がないように配慮している。 季節の花を飾る置き物も変えている。	○	季節の花、置き物を工夫する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭で独りで過ごしたり、散歩のあと、利用者同士で思い思いに過ごしている。	○	庭のベンチやテーブルを明るくし、居心地の良い居間を作っていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	○	タンスや椅子以外にも好みや馴染みの物などを 生活スタイルに合わせて用意し、居心地のよさに 配慮していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	○	居室の換気を常にし、布団カバー等の洗濯をこ まめにする。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	○	物干しの高さ等、利用者の生活環境を整えてい くように工夫する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	○	状態が変わり、新たな混乱が生じた場合、その 都度対応していくように職員の話し合いをもっ ていく
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	○	庭をもっと明るい雰囲気にしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気、職員と擬似家族としての関係ができています。

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホームハッピー万々

ユニット名 ハッピー万々Ⅱ

自己評価実施年月日 平成 19 年 8 月 15 日

記録者氏名 佐藤 美恵

記録年月日 平成 19 年 8 月 20 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	理念を地域に浸透させていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	GHの行事参加、見学の機会を多く取れるようにしたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	スーパーだけでなく、地域の店を使うようにする。 家族にも声をかけて一緒に出かけるようにする。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所の方に参加していただく行事を計画していきたい。カラオケ、バーベキュー等したいと思っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	町内会に参加し、地域の行事に積極的に参加する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の回覧に載せてもらい、情報を出して、見学に来られた時に相談を受けている。	○	いつでも見学に来ていただけるように声かけしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に伝え、日常的に意見交換して、日誌の書き方等に取り組んでいる。	○	日誌の書き方、ケアプラン
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告し、意見をもらっている。 (学校の生徒と交流でできるようにしたらどうかとの意見をもらっている)	○	交流のための動きを検討している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組みができていない	○	質の向上のため、意見をもらうようにする。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は理解し、必要な場合は支援している。	○	成年後見のための手続きを家族からあったとき、支援をしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会で話し合いをしている。 家族への防止にも取り組んでいる。	○	職員に言葉の虐待にならないように職員会等で徹底している。 家族へ防止のため、市へ連絡した。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○	理解と納得を確認し、安心できる説明をしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	不平不満を個人での対応でなく、職員全体が対応するようにする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	電話でも連絡をしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	GHに来られたとき、家族とゆっくりと話せるじかんを作りたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	話しやすい雰囲気作りをしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○	急な受診等のときの対応を考えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員対応としている。 異動の場合も家族に説明し、新しい職員が入ったときも、コミュニケーションしやすいように配慮している。	○	異動が少ないように配慮していきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立てて、参加の呼びかけをしている。事業所内での勉強会をする。	○	個人の研修参加の内容を報告する。 事業所内の勉強会の実施。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHのスタッフや管理者と交流を持ち、相談もしている。	○	他のGHと連絡をとり合い、意見交換し、質の向上のため研修の機会を持ちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常の会話や表情でストレス等把握するように努めている。	○	愚痴や希望が言えるような声かけをしていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況等把握して、資格取得のため支援し、研修参加への配慮をできるだけしている。	○	職員が向上心を持って働けるように配慮し、呼びかけをしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握し、事業所のことも説明し、ご本人にGHに来所してもらい、職員が本人に受け入れられるように努力している。	○ 事前面談で本人の希望、ご家族の希望を聴く時間をかけていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	聴く努力をしている。	○ 時間をかけて聞くようにしたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことを見極められるように他の のアドバイスを受けている。	○ 必要としている支援を見極めるように情報を得ておきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらい、また自宅へ出向く等の機会を作っているが、すぐに入所の場合があった。	○ ご家族・本人に事業所を見学し、また自宅へ出向く等、職員や他の利用者と馴染めるように家族とも交流していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も一緒に利用者と過ごす時間を多くするように努力しているが、時間は少ない。	○ コミュニケーションの時間を多くとる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にGHに気軽に来てもらって、職員も参加し、コミュニケーションをしている。	○	職員は家族の思いに寄り添いながら、情報の共有に努め、利用者を一緒に支えることが出来るようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	訪問しやすいようにし、日頃の会話の様子も知らせるようにしている。	○	写真等で生活の様子をもっと知らせていきたい。 行事参加の呼びかけをする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の関係が続けられるように、連絡や面会の機会づくりの声かけをしている。	○	友人がGHに入りやすいような声かけをしている。行事にも参加してもらえるようにしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が仲良くできるように一緒に職員も会話に参加している。	○	利用者同士が仲良く話しができるように職員も一緒に過ごす時間を多くする。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院しても利用者を見舞い、様子を聞いている。	○	サービス利用が終了しても様子を聞いていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中から表情等で把握に努めている。会話の中から希望を見つけ出していくようにしている。	○ 言葉だけでなく、態度や表情に気をつけて見ていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴が詳しく分からない利用者があるので、家族・親戚に来所時に教えてもらっている。	○ 生活歴の記入を詳しくしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の状況を職員会や申し送りで把握するよう努めている。	○ できない事よりできる事に注目して、その人全体の把握できるように職員に徹底したい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今までになかった事や気付いた事などがあれば、スタッフに連絡・報告し意見交換している。	○ 担当者会を開催している。 家族からも意見を聞いている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しに加え、入院や体調変化時等に必要に応じて随時見直しをしている。	○ 職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望をより取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に沿っての実践評価（モニタリング）を毎月している。 申し送りノート・健康管理表の確認、ミーティングや担当者会・職員会にて情報共有に努めている。 状態に応じ、水分・食事・排泄チェックをしている。	○	口答にて情報収集している。 今後は担当制のモニタリングにも取り組む予定。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療処置を受けながらの生活の継続の支援、早期退院の支援をしている。	○	医療処置を受けながらその人らしい生活ができるように支援する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防や地域の民生委員、近隣の方と交流し、ボランティアにも来ていただいている。	○	近隣の方ともっと多くの交流ができるように支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他病院からボランティアの美容師を紹介していただき、来てもらっている。	○	地域の他のサービス事業所と話し合いをし、情報を得て、他のサービスを利用するための支援をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域推進会に参加していただき、地域の事業所の行事の情報を得て参加している。	○	ケアマネジメント等の意見を得ていけるようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	情報をできるだけノートに詳しく記入して、ご家族に渡すようにする。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	状態変化の時、その都度相談する。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	訪問看護の職員と常に連携し、相談している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院によるダメージを少なくするために、病院と話す機会を持ち、家族とも連絡し、退院への支援をしている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ご家族の納得がいくように話し合うようにする。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ご本人とご家族が安心して終末期を迎えられるように話し合いを度々していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供している。	○	職間が訪問し、きめ細かい連携をするように心がけたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳と権利を守るため、排泄介助時及び声かけ、日常生活においてもプライバシーの確保を実施している。 記録においてもプライバシーの確保をしている。	○	日常生活においてスタッフ間で利用者についての個人的な事を守っていききたい。介助ににしてもさりげなく行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思い、希望にあわせ、支援させていただいている。	○	入所時納得していただき、入所していただいているが、本人の希望をもっと表せる働きかけをしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活をしていただくため、個別に対応させていただいている。	○	食事においても、時間にとらわれずに食事していただいている。入浴においても希望に沿って支援している。 自室での過ごし方は個々のペースで過ごしているが、共同の客間でも遠慮のない生活となるようにしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所の美容室及びボランティアによる美容等、ご本人の希望に沿うよう支援している。	○	美容室に行かれることもご本人が望まれるよう、支援させていただいている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と相談しながら決め、野菜切りや米とぎ、盛り付け等スタッフと一緒に調理され、食事は同じテーブルでスタッフ全員が同じ物を一緒に食べる	○	その日のメニューは利用者と相談しながら決め、野菜切りや米とぎ、盛り付け等スタッフと一緒に調理され、食事は同じテーブルでスタッフ全員が同じ物を一緒に食べる
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	スタッフは利用視野の嗜好物の把握に努め、おやつのお時間にお出している。 誕生日、祝日にはノンアルコールビールで乾杯している。	○	スタッフは利用視野の嗜好物の把握に努め、おやつのお時間にお出している。 誕生日、祝日にはノンアルコールビールで乾杯している。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間誘導をするも、スタッフは羞恥を感じさせないよう言葉かけに配慮する。 一人一人のサインを把握し、さりげなくトイレ誘導する。	○	拒否がある場合、言葉かけの工夫や、チームプレーで支援する。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフが一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認している。 入浴を拒む人に対しては、言葉かけやチームプレーによって利用者に合わせた入浴支援をしている。	○	羞恥心を感じさせないように配慮する。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、散歩やレク、買い物当に参加され、生活リズムを整え、ハリのある生活をされるよう工夫している。 夕方からは就寝にむけ、ゆったりと過ごされるよう工夫している。	○	夜中寝付けないときには、添い寝したり、温かい飲み物をお出ししている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備では、米とぎ・野菜切り・野菜の皮むき等、食器洗いや洗濯物たたみ等、利用者に役割分担をし、終わると感謝の気持ちを伝える。	○	地区の夏祭りや運動会、JAみかづき祭に参加している。 個人の趣味を取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり管理しているが、外出時や買い物時などスタッフが同行し、自分で払っていただけるようお金を手渡ししている。	○	家族よりお金を預かり管理しているが、外出時や買い物時などスタッフが同行し、自分で払っていただけるようお金を手渡ししている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気やご本人の希望・体調に応じてご近所への散歩をされたり、スーパーへ買い物に行かれる。 ご家族と一緒に外出される。	○	ご近所の美容院へカットやパーマをかけに行かれる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感やいつもと違った雰囲気を味わっていただけるよう毎月計画をたて、バスレクにて外出される。場合によってはご家族の協力を依頼する。	○	季節感やいつもと違った雰囲気を味わっていただけるよう毎月計画をたて、バスレクにて外出される。場合によってはご家族の協力を依頼する。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い・年賀状等、季節のあいさつ状を書いていただく。 家族からの電話でお話ししやすい雰囲気作りや場所の工夫をしている。	○	暑中見舞い・年賀状等、季節のあいさつ状を書いていただく。 家族からの電話でお話ししやすい雰囲気作りや場所の工夫をしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも普段着で気軽に来られるような雰囲気作りを心がけ、スタッフは笑顔で対応している。	○	他の利用者に気兼ねなく過ごしていただけるよう自室にご案内し、居心地のよい空間作りを心がけている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利・擁護や身体拘束に関する研修会に出席し、スタッフ間の共有意識を図っている。	○	サイドレール4本 家族の希望により同意書あり 身体拘束11種類の把握 スタッフ間の認識を徹底していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声かけをしたり、一緒について行くなど、安全面に配慮する。 見守り、声かけ、スタッフ間の連携プレー	○	東門は水路があり、鍵をかけているが、散歩の時や庭にいる時ははずす。 西門は道路に面し、交通量が多い為、PM16:00～AM10:00まで門扉に鍵をかけ、AM10:00には開ける。 声かけ、確認を常にしている。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は見守り、声かけ、スタッフ間のチームプレーの徹底に努める。夜間帯や自室で過ごされる場合は、所在の確認をし、24時間利用者の安全に配慮する。	○	日中は見守り、声かけ、スタッフ間のチームプレーの徹底に努める。夜間帯や自室で過ごされる場合は、所在の確認をし、24時間利用者の安全に配慮する。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、利用者の状況変化によって、注意を促しといく等ケースに応じた対応をしている。	○	利用者の状況に照らしながら、利用者の状況変化によって、注意を促しといく等ケースに応じた対応をしている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ間の連携プレー、声かけ、見守りの徹底。 インシデント、アクシデントを記録し、カンファレンス会議し、スタッフの共有意識を図る。	○	誤薬しないようにスタッフ2名にて声かけ確認の徹底と、朝・昼・夕の薬箱にて分別する。 誤嚥しやすい利用者には、きざみ食にしたり、ピューレ食等、工夫している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応についてのマニュアルの整備確認や研修に参加し、スキルアップしている。	○	看護師と連携をとり、24時間いつでも連絡が取れる（携帯電話等で常に連絡が取れる）体制を執っている
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、火災訓練を行っている。地域の方への参加も得られるように声かけしている。	○	消防署の協力を得て、火災訓練を行っている。地域の方への参加も得られるように声かけしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	安全を優先しすぎないように自由な暮らしができる事が行動の障害を少なくしているとの説明をしている。	○	外出の機会を多くしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や表情の変化の発見に努め、職員と共有し、訪問看護に相談する等、必要に応じ医療受診している。	○	体調や表情の変化の発見に努め、職員と共有し、訪問看護に相談する等、必要に応じ医療受診している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会をしている。 職員は処方箋を見て薬の目的、副作用を理解するように指導している。変更の場合申し送りで目的を書いている。	○	処方箋を見て副作用を全員が理解するように徹底する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のために食材に繊維の多いものや乳製品をとるようにしている。 散歩や体操で身体を動かすようにしている。 薬の服用も医師・訪問看護と相談しながら対応している。	○	便秘予防のために食材に繊維の多いものや乳製品をとるようにしている。 散歩や体操で身体を動かすようにしている。 薬の服用も医師・訪問看護と相談しながら対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを個々の状態に応じて対応している。	○	毎食後口腔ケアを個々の状態に応じて対応している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態によって食べる量、水分量を記入して、医師に相談する等支援している。定期的に管理栄養士のアドバイスももらっている。	○	状態によって食べる量、水分量を記入して、医師に相談する等支援している。定期的に管理栄養士のアドバイスももらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルを作成している。インフルエンザは職員共に予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、定期的に消毒をしている。	○	感染症に関するマニュアルを徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんは毎日、まな板は定期的に漂白し、冷蔵庫の掃除に気を付けている。 新鮮で安全な食材を使用するよう気を付けている。	○	ふきん、まな板、食材に気をつけるようにする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気玄関になるように花を植えて、利用者や家族、近隣人等に親しみやすいようにしている。	○	庭のベンチの周りを変えて、近所の方も入ってみたいようにしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜は遅くまで居間を電気をつけないようにする等、不快な音や光がないように配慮している。 季節の花を飾る置き物も変えている。	○	季節の花、置き物を工夫する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭で独りで過ごしたり、散歩のあと、利用者同士で思い思いに過ごしている。	○	庭のベンチやテーブルを明るくし、居心地の良い居間を作っていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>タンスや椅子以外にも好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意し、居心地のよさに配慮していきたい。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	<p>居室の換気を常にし、布団カバー等の洗濯をこまめにする。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>物干しの高さ等、利用者の生活環境を整えていくように工夫する。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	<p>状態が変わり、新たな混乱が生じた場合、その都度対応していくように職員の話し合いをもっていく</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	<p>庭をもっと明るい雰囲気にしていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気、職員と擬似家族としての関係ができています。